

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット/2階ユニット)

事業所番号	2799400060		
法人名	株式会社フレンド		
事業所名	グループホーム フレンド大阪中央		
所在地	大阪市中央区高津3丁目14番26号		
自己評価作成日	令和5年8月13日	評価結果市町村受理日	令和5年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年9月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

散歩や買い物で近隣の黒門市場や商店に行くことや、地域の集いなど会館にて毎月開催されている自治体主催の「ふれあい喫茶」等に参加し、地域の方との交流の機会をく設けるようにしています。その他にも、毎月のイベント開催や各ユニットごとの季節を感じるような飾り付けや日常的な家事などを利用者様と一緒に、自立支援に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は大阪府下に5か所のグループホームと、大阪市内の当グループホームの同一建物1階には、小規模多機能型居宅介護施設を1か所運営している。当事業所は11年目を経過して、3年前に赴任した管理者を中心にこれまで大切にしてきた個別ケアのスタイルを継続しよう、ひとり一人のタイミングに合わせ、希望に沿った支援体制の確立を目指している。特定技能実習生(インドネシアから)の受け入れを行い、現状6名が日々利用者に寄り添い、優しい笑顔で接している姿が見受けられた。恵まれた環境の中で徒歩圏内に位置している神社やお寺が多く、季節ごとに咲くお花の鑑賞には、日々の散歩の楽しみとなっている。また事業所では看取りの事例が多く(今年度4名の看取り・現状4名の方が終末期)管理者はその都度事例に沿った研修を実施しており、職員共々看取りの力を付けて対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果【3ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念、運営方針、各ユニットごとのスローガンを掲示し、管理者と職員が共有している。	法人理念のほか、事業所では各ユニット毎にスローガン、2階(気にしていますか自分の言葉・相手の気持ち)、3階(声掛けそばにいますよ大丈夫、全ての動き想定外、笑顔で見守る優しさ)、4階(ひとり一人の安全な場所、笑顔、有難うの言葉)を考えて各階の事務所に掲示し、毎月の会議の中で共有しながら、振り返りを行なっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治体主催の「ふれあい喫茶」等への参加や黒門市場への買い物・散歩に行き、地域との交流を図っている。	自治会に加入し回覧板にて地域の情報を得ている。管理者は自治会の会議(年2回)に出席しており、今年の秋祭りに参加も考えている。更に今後は神社でのお祭りや季節の花見、地域の防災訓練、「ふれあい喫茶」に参加しコロナ禍の中で中止となっていた地域とは、日常的な交流に向けて進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の包括支援センターとの連携により、地域コーディネーターの方々の見学会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町会の会長様、地域の方々、包括支援センターの職員の方にアドバイスや地域の活動の情報を教えて頂き、事業所のサービス向上に活かしている。	会議は7月から同建物内の小規模多機能施設と一緒に合同で実開催されている。町会長、連合副会長、地域福祉コーディネーター、地域包括センター、民生委員、家族(小多機能施設1名)の出席の基に開催され、特定技能性の受け入れ、研修、イベント報告、感染予防対策が話し合わせ議事録は家族や関係者に郵送されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録の共有や、グループホーム連絡会への参加を通し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	公的扶助者が10名あり、市の生活保護課には医療券の申請や認定更新、車いすの申請、介護保険課には医師の意見書の交付等で連携している。グループホーム連絡会が3か月ごとに(zoom)開催され、各種情報交換や空室状況の連携が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をする必要のないサービス提供ができるよう、研修やカンファレンスを定期的に実施している。	身体拘束指針の基、運営推進会議の前に、身体拘束適正化委員会を開催している。現在センサーマットの使用者が在り、家族に説明して経過観察を行い同意を得ている。研修も年2回以上開催され、マニュアルに沿って言葉の変換の仕方を話し合い、時に利用者が不穏時にはユニットを移動してお友達に会いに行ったり、職員と一緒にユニット間での交流もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、研修を実施している。定期的に職員への聞き取り調査とカンファレンスを行い、虐待防止を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	安心サポート担当者や、運営推進会議の中で相談し、職員と共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族様と書面と一緒に確認し説明を行っている。都度、疑問点はないか確認しながら進め、ご理解・ご納得頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口やご意見箱の設置、アンケートハガキの送付をし、迅速に対応できるように努めている。	面会は予約制で居室で自由(30分位)に過ごしている。法人から年6回のアンケートはがきが送付され、利用者家族から出てきた要望に応じている。ブログを毎月更新して写真や動画を発信して喜ばれている。今後家族に向けた事業所便りの送付を考案中である。	管理者は今後事業所便りを考案中で、居室担当制を取り、担当者からの個別なコメントを記入した、写真付きのお便りを発送しようとしている。実現を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員との会議を開催し、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。事業所からの意見は、毎月開催されている本部職員との会議にて伝え、反映させている。	毎月1回その日の出勤者が参加をしユニット会議が開催されている。管理者は毎月本部で開催される「本部幹部会議」に出席して各種職員からの要望(食材会社の変更、福祉用具について)を検討して話し合い、ユニット会議に結果を報告し業務の改善に繋げている。外部研修出席への要望には法人が支援して研修に参加する教育支援体制がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部職員が事業所を訪問し、意見を聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な研修の実施と、職員のスキルに応じた研修を実施し、職員の技術向上に努めている。 法人外の研修参加も職員に呼びかけ参加できるように試みている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に職員が参加できるようにシフトを調整したり、社会福祉協議会の研修等への参加や意見交換の場、勉強の機会を確保できるように努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前の事前面接を必ず実施し、ご本人様の意向を確認し、サービス内容の説明を行い、ご本人様の同意を得られるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前の事前面接を必ず実施し、ご家族様の意向を確認し、サービス内容の説明を行い、ご本人様の同意を得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用前の事前面接を必ず実施し、ご本人様、ご家族様の意向を確認し、サービス内容の説明を行い、ご本人様の同意を得られるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気での日々の生活の中で、入居者様の意向を伺い、イベントや家事を共に行い、自立支援に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時に家族様へ日々のご様子をお伝えし、必要に応じて協力をご依頼し、共に利用者様を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙や電話でのやり取り、居室にてゆっくりと面会できる時間の提供を行っている。また、近隣の馴染みの場所を散歩コースに取り入れるよう努めている。	今まで行っていた商店街の買い物は、コロナ禍の中で散歩時に当時の雰囲気を味わう程度にとどめている。娘さんが経営する美容室に1名の利用者が外出している。他の階に出来た友人にはユニットを跨いで会いに行き、切手の購入や、ポストまではがきを投函に行く利用者がいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内でのイベントやレクリエーションへの参加のお声がけをし、職員が利用者様同士の間を取り持つ支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもご相談いただけるように、ご家族様へのお声がけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接の際に、ご本人様、ご家族様の意向をお伺いし、サービス提供に反映させている。 入居された後も定期的にご本人様、ご家族様の意向をお伺いし、個別対応を行っている。	入居前の情報は家族や以前のケアマネジャーから情報を得てフェイスシートに記録して共有している。その後も日々の生活の中で知り得た情報はアセスメントを実施して情報を共有している。表現できにくい人にも、手を握ったり表情や仕草を観察したりして、やりたくない事を把握して個別に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時にお伺いし、職員とも共有している。入居後も日々のコミュニケーションを通して把握に努め、得られた情報は記録し職員との共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の自立支援での入居者様との関わり合いを通して得た情報は随時記録し、情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時にはご本人様、ご家族様、関係者や職員それぞれの意向や意見・提案を聞き、モニタリングの実施と介護計画への反映を行っている。	計画はモニタリング(1年)を行い、サービス担当者会議を開いて医師や看護師からは事前に意見を聞き、本人・家族、計画作成者が参加の基に短期1年、長期2年ごとに計画の見直しを行なっている。体調変化時にはモニタリングやカンファレンスを行い、計画変更後は家族に説明を行い同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分量、排泄やバイタルサインだけでなく、日々のご様子も個別記録に記録し、職員間で共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化があれば、随時モニタリングやアセスメント、カンファレンスを行い、臨機応変に対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期開催の喫茶や近隣のお寺といった地域資源を活用し、ご本人様の心身機能を発揮できるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用開始時にご本人様、ご家族様の意向をお伺いし、かかりつけ医のご希望があれば継続して受診して頂けるよう支援している。	かかりつけ医に関しては過去に従来からの医師を継続した例はあるが、現在は全員が協力医の訪問診療を受けている。他科受診の必要があるときは協力医の紹介状を持って家族または事業所が同行している。歯科、精神科の訪問もあり必要な人はうけている。医療連携ファイルを作成し、医師、看護師、職員、家族と共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療、訪問看護、外部受診先の専門医と連携し、ご様子に変化があればすぐに連絡し対応するよう、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医療ソーシャルワーカー等と情報交換を図り、必要時には入院先へ訪問している。退院時のカンファレンスがあれば参加し、退院後の事業所での生活がスムーズに送れるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用前に重度化した場合の法人の方針をご説明させて頂いている。ご入居後に様子変化等があればご家族様と密に連携し、改めて説明させて頂いている。	入所時に重度化した場合の取りの方針を説明し同意をとっている。看取り例は多く、今年4名の実績があり現在も4名が実施中である。研修は年2回行い、事例に即して適時現場研修して医療、介護、家族と連携をとり、職員のスキルは高い。職員のメンタルケアにも配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時にすぐに適切な対応が取れるよう研修を行っており、対応連絡先の掲示も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルの作成と職員への研修、利用者様との避難訓練を実施している。	法定の避難訓練の内1回は夜間想定とし、消防署の立会いを求めて行われている。火災時、利用者はベランダに避難、水害は立地条件から想定されず、地震時はできるだけ建物内にとどまることになっている。備蓄、BCP(事業継続計画)は本社が対応している。	地域との協力関係は薄いので、前回調査の課題になったが、コロナ禍で達成できなかった。運営推進会議で話し合うこと、地域防災活動に参加することなどから始めていくことを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアルを作成し、介護保険の理念やお声かけについて研修を実施している。	研修は接遇やプライバシーのマニュアルをもとに、わかりやすく管理者が編集して資料をつくり行っている。参加できなかった人には資料を渡しレポート提出で確認している。利用者本位とし、無理強いしないことを基本にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が思いや希望を言いやすい環境を提供できるように努めている。利用者様それぞれの認知症状に適したコミュニケーションを図り、利用者様が自己選択、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の主体が利用者様であることを研修などを通し職員に伝えている。体調や精神状態にお変わりがないか見極めながら利用者様の意向をお伺いし、生活の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出時だけでなく、起床後にもお化粧や服の選択、髪型を整えることができるよう、利用者様それぞれに合わせて支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様それぞれのできること、できないことを日々の生活の中で考察しながら、その日の体調、精神面を考慮し、食事の準備や片付け、掃除などを職員と利用者様が一緒に行っている。	食事は業者から、冷凍か冷蔵の調理済みが届き、炊飯と汁ものはユニットで調理している。イベント食にも対応してくれるが時々発注をやめてフロア独自で調理することもある。利用者の希望を聞いておやつを一緒に手作りしたり、季節のフルーツを楽しむこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の疾患からの主治医の指示やご家族様の意向を踏まえ、支援している。体調変化があれば臨機応変に対応している。日々の食事量や水分量は記録し、栄養や水分が確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	嚥下性肺疾患の予防、嚥下機能低下防止、認知症の進行防止の為、毎食後に口腔ケアを実施している。義歯、自歯、利用者様それぞれに見合った口腔ケアの援助を実施している。ご本人様、ご家族様の希望に合わせて訪問歯科医を毎週受診し、助言や支援を頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録にて排泄パターンや習慣を把握し、トイレでの排泄ができるように支援している。	現在27人中7人くらいは自立し、見守りと確認は全員している。大半はリハビリパンツやパットを使用、看取りケースはオムツになっている。訴えのある人はその都度、ない人は定時で介助している。できることは自分でやってもらうを基本にADLが落ちないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の排泄リズムを把握し便秘にならないよう、訪問診療、訪問感度と連携を取り支援している。日常的な水分補給を心掛け、飲水量の記録を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望やその日の体調に合わせて入浴できるよう支援している。	浴そうは3方向から介助ができる方式であるが現在浴槽に入れる人は少ない。多くはまたぐことが困難でシャワー浴になっている。浴室を十分温かくして行い、特に浴槽に入りたいと希望する人はいないようだ。もし希望があれば1階の小規模多機能の機械浴を借りることが可能でミスト装置もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動や体操、レクリエーション活動を実施し、メラトニン減少での夜間不眠の進行や昼夜逆転が起こらないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用開始時に服薬情報や主治医の指示内容の確認、留意点などの情報を共有している。訪問薬剤師に薬の管理して頂き、服薬時には服薬支援システムを利用し、職員2人体制で服薬介助を実施し記録している。主治医、居宅管理指導の薬局と連携し、支援行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事のお手伝いのお願いや、レクリエーションの実施、日々の生活の中で気分転換ができるように散歩等を活用し支援している。利用者様それぞれの嗜好品も提供できるよう、ご本人様のご希望伺い、ご家族様と連携し個別対応を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自治会の行事や神社での催しなどに参加できるように支援している。家族様にご本人様の意向をお伝えし、家族様と外出できるような機会を設けている。	市場や公園、寺通りと立地条件がよく、以前はよく外出していたが、コロナ禍で中断になっていた。現在は制限解除したので、近所の散歩、家族との外出は再開している。だんだん機会を増やしていきたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活品などの買い物に、散歩を兼ねて職員が同行し、利用者様がお金を所持し使う機会を確保するように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、利用者様がご家族様へ電話できる環境や、かかってきた電話をお繋ぎするように支援している。手紙を書いたり、切手の買い物支援、ポストへの投函を一緒に行うよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごして頂けるように採光や換気、空調の管理を随時実施している。ユニット毎に季節に応じた飾り付けを工夫し、季節を感じて頂けるような工夫をしている。	リビングキッチンを中心にその奥の廊下の両側に居室が並んでいる。その広い廊下はイベントの時の写真が貼ってあり、歩行練習にも使われている。もう少ししたらハロウィンの飾り付けをしてにぎやかな雰囲気になるという。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りで過ごせる環境整備や、気の合う利用者様同士で過ごして頂けるよう、居住以外のユニットへの出入りの支援などを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用前の持ち物説明の際に、ご本人様に馴染みのある家具や品々を持参して頂きたい旨をご説明し、居室環境を整えることができるよう支援している。個別に食器類等も馴染みのものを使って頂けるよう支援している。	ベット、クローゼット、カーテン、空調が備え付けであとは持ち込みとなっている。退所者が残っていた家具、寝具などもありすぐに生活できる状態ではある。仏壇、家具、家族写真などでその人らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリーになっており、個別に必要な福祉用具を使用し、安全に過ごして頂けるよう環境整備をしている。利用者様の「できること」「わかること」は利用前の面談と利用後のケアを通して把握し職員間で共有し、自立した生活が継続できるように支援している。		